

秋の草地改良

山地、河川敷、畦畔の野草を良質牧草で改良しましょう

(一) 野草地を牧草で改良し、良質多収な飼料生産の場としましょう

国全体としての草地は約八百万町歩、農家個々の場合でも、山地、河川敷、畦畔、路傍、林地等多少の草地を誰もが保有して居りますが、これら草地のほとんどは所謂放任草地で産草量の少いことが大きな特徴であります。

一般に認められている草地の反当生草量はどの程度かを確かめてみますと、

- 改良されない畦畔の草 九九〇疍
- 改良された畦畔の草 三、九三七疍
- 堤防河川敷の草 二、〇二五疍
- 道路の草 七八七疍
- 自然草地の草 四五〇疍
- 林野の草 四五〇疍
- 耕地の青刈 (二、三毛作) 一〇、一二五疍
- 自然放任草地すなわち野草地が改良草地に較べていかに生産が低いかが解ると共に草地改良による生産の向上は他の作物に比較にならないような顕著なものであることがわかります。

これは改良草地は、土壌改良 (石灰、有機質施用) や施肥の効果も多いが、更に夏だけ生育する型の野草に代つて一年中生育し産草能力の高い牧草の入ることがより大きな原因であります。

牧草と園芸 秋季特集号 目次

◆よいねで酪農繁栄.....	天崎 正雄	二
◆秋の草地改良.....	天崎 正雄	三
◆野草地の改良にはどんな牧草が向くか.....	天崎 正雄	四
◆暑さにも強い高蛋白飼料ルーサン.....	天崎 正雄	五
◆乾燥地に育つブROOMグラス.....	天崎 正雄	六
◆赤クロバリの上手な作り方と使い方.....	天崎 正雄	七
◆ラデノクロバ리를主体とした集約放牧地を作ろう.....	天崎 正雄	八
◆水田裏作利用の飼料作物栽培.....	天崎 正雄	九
◆東北北陸地方のルタバガの移植栽培法.....	天崎 正雄	一〇
◆飼料作物の品種と使い分け.....	天崎 正雄	一一
◆短期間に多収の出来るつくり易いイタリアンライグラス.....	天崎 正雄	一二
◆青刈玉蜀黍の多収法.....	天崎 正雄	一三
◆ベッチと豌豆の栽培法.....	天崎 正雄	一四
◆えん麦とライ麦の栽培法.....	天崎 正雄	一五
◆畑地裏作の飼料栽培.....	天崎 正雄	一六
◆水田・畑地裏作も混播を.....	天崎 正雄	一七
◆畑地のレンゲクリムソンクロバリー.....	天崎 正雄	一八
◆適応性の広いアルサイククロバリー.....	天崎 正雄	一九
◆瘠地にも暑さ寒さにも強いケンタッキーライグラス.....	天崎 正雄	二〇
◆東北北海道に最適のいね科永年牧草チモシー.....	天崎 正雄	二一
◆常緑の牧草トルオトグラス.....	天崎 正雄	二二
◆短年法で生育の早いペルニアラライグラス.....	天崎 正雄	二三
◆カブの栽培.....	天崎 正雄	二四
◆秋まき葉菜飼料レップ、C・D、ケール.....	天崎 正雄	二五
◆暑さ寒さに強いオーチャードグラス.....	天崎 正雄	二六
◆お取引について.....	天崎 正雄	二七
◆秋播用雪印のたね特価表.....	天崎 正雄	二八

(二) 草地改良は酪農経営合理化への近道

生産量の高い改良草地を利用する酪農家は幾多の障碍を突破して、経営が合理化され、酪農経営

野草地の改良には

どんな牧草が向くか

如何に優良な牧草でも適地を得なければ、収量を挙げることは出来ません。適地適作、適種類は牧草の場合には特に重要です。土地の肥瘠を現在生えている野草によつてある程度判定することが出来る。どんな野草の土地にはどの牧草が向くかも大体見当がつくので、次表を導入適牧草選定の手がかりとしていただきたいものです。

野草地の状態	地力指数	適すると思われる牧草
禿山、砂地等の荒れた土地	〇	ケンタッキー三一フェスク、ラブグラス、シープフェスク、レスベデーザ、バーズフック、ラフォイル、ハギ類、パーミューダグラス、飼料木等
シバのような短い不良草の生えた土地	二五	荒れた土地の適牧草の他にケンタッキーブリュンネグラス、ホイットグラス、ベッチ類タンジャビー等
チガヤのような中間草の生えた土地	五〇	チモシー、オーチャードグラス、トルールオートグラス、ライグラス、アルサイククロバリー、ラデノクロバリー、ベッチ類タンジャビー、サブクロバリー等
ササ、ハギ、ワラビの生えている土地	五〇(六〇)	チガヤ地適牧草の他にブROOMグラス、スイートクロバリー、レグドトップ、クリムソンクロバリー等
灌木の生えている土地	六〇(八〇)	前二項の他に赤クロバリー等も適
ススキのようながい草の生える土地	七五	各種牧草
森林地	一〇〇	林地のままでも牧草を入れる場合はオーチャードグラス、ラデノクロバリー、ベッチ類ハギ、ケンタッキー三一フェスク等樹木を伐採した場合は各種牧草

の真のウマ味（飼料費の大きな節減、乳牛の健康増進、労力の軽減、産乳の増加等）を満喫することが出来ます。

(三) 秋の草地改良のやり方

現在栽培されている牧草のほとんどは北方型の草ですから、あまり高温な春や夏よりも秋の方が発芽もよく、稚苗時の生育も順調です。それに野草地への牧草導入は、雑草、野草の生育の衰える秋が播種と牧草の生育を順調にする適季です。すなわち秋は牧草播種の最もよい時期であります。

(a) 野草地への牧草導入の手順

(イ) 草生障碍物の除去 開墾耕鋤が行われれば申分がありませんが、耕鋤が行われなくとも野草の刈取り、根株の掘取り、藪の焼払いを行つて、発芽当初の牧草が、雑草や野草、藪等に圧倒されないように草生障碍物を除去し、更に播き床をハローでつくる。

(ロ) 飼肥料木の植込み イタチハギ、ハンノキ、トゲナシアカシヤ等を庇陰、防風、土壤流亡防止、更には地力漸増を目的に反当四〇〜五〇本を植込むと草生が良好になり特に夏枯れ防止に役立ちます。

(ハ) 施肥 土壤改良と草質向上と更に多収のために反当石灰一〇〇〜一五〇疋、金肥三要素配合で三八疋程度、更に出来れば堆厩肥を施用します。

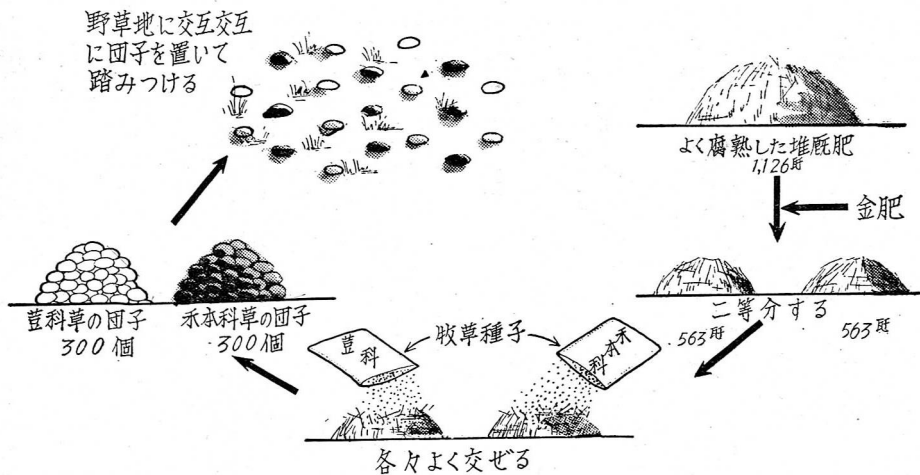
(ニ) 牧草播種 各土壤条件に合う牧草（五頁特性表参照）を数種混合し、北海道では八月上、中旬、暖地では九月に入つて早魃の心配のない時期に播種します。

(ホ) 覆土、鎮圧 覆土は浅く均一に行い、鎮圧

を行つて発芽を整一良好にするようにします。

(ウ) 管理 晩秋、初冬までに相当に牧草が伸

長しますが、冬越しを良好にするために初年目は刈取り放牧を行わず、翌春は追肥を早目にして、草の伸びをまつて利用を開始します。



堤防、河川敷等耕起の出来ない場所に利用される堆肥団子による草地改良法

暑さにも強い

高蛋白飼料ルーサン

暖地の夏は暑さと共に早魃で草の生育は非常に不良となり、この時期の高蛋白の青草として大豆やカウピーが利用されておりありますが、永年草地の場合は、ルーサンが最も適しております。ルーサンが高蛋白の飼料である事は、その乾草粉末を米ヌカの代用として用いられるのをみても分ります。

ルーサンはどうして他の苜蓿牧草に較べて暑熱に強いかといえますと、それは深い根を有するからです。（表紙裏を御覧下さい）牧草の夏枯れは高温も原因ですが、それ以上に土壤水分が影響することが判明しており、深根のルーサンはよく下層部から水分を吸収することが可能だからです。ルーサンの威力を充分發揮させるためには、土地の選定が第一条件です。

- 排水の良好な土地であること。（排水）
- 有機質が豊富であること。（堆厩肥、緑肥施用）
- 耕土の深いこと。（深耕）
- 酸性の矯正。（石灰の施用）
- 雑草の少ないこと。（特に稚苗は雑草に負け易

第二条件は品種の選定

多雨湿潤な気候の日本では耐病、直立、早生で頻繁に刈取り出来る必要がありますが、この要求に適った品種がデユビットです。また生育の旺盛な南方型品種アトランチック耐病多収の暖地向け品種パツファローも夏枯れ防止の基本草種として草地に用いるべき優良品種でしょう。

